５．甲信越（地域別調査機関：株式会社ＤＢＪ総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連（甲信越）	◎	タクシー（経営者）	・年末に向けて、特段トラブルがなければ一段と動きが良くなるとみている。
	◎	その他サービス［葬祭業］（経営者）	・11月には戸建て住宅の整理依頼が入っている。今後もこうした依頼は増えるとみている。
	◎	設計事務所（経営者）	・２～３か月先までは年度内の業務分で満たされており、業界全体を含め、身の回りの景気は良くなる傾向である。
	○	スーパー（経営者）	・９月は長雨の影響もあり、キャベツ、白菜、ほうれん草等の農作物が高騰していたが、10月後半になって落ち着いてきている。年末に向けて売上を伸ばしていきたい。
	○	コンビニ（経営者）	・年末年始の需要でやや良くなる。
	○	その他専門店［酒］（店長）	・今月の売上は非常に良かったが、周囲の飲食店や顧客は良くなかったと聞いている。３か月後はもちろんやや良くなるとみているが、物価高が厳しく、客が飲食店に足を運びづらい状況のため、飲食店の回転数も非常に少なくなっている。今後は不透明ではあるものの、売上を伸ばすよういろいろな努力をして、実を結ぶことを期待する。
	○	高級レストラン（経営者）	・年末に向かい、食事会や宴会等も増えてくる。
	○	一般レストラン（経営者）	・来年は地元古刹の祭礼に向けたイベントが開催されるため、良くなってほしいという期待感がある。
	○	スナック（経営者）	・忘年会シーズンに入ってきて、団体等で飲みに出る機会が結構増えてくるとみている。例年のようにはいかないかもしれないが、いつもの月よりは２割程度売上が上がることを期待している。
	○	観光型旅館（経営者）	・天候状況次第ではあるが、冬季の予約数が比較的好調なことに加え、問合せ、宿泊ニーズに手応えを実感している。
	○	遊園地（職員）	・パブリシティの獲得やイベント開催など、積極的な集客施策の実施や情報発信を行い、より多くの客の獲得につなげていきたい。
	□	商店街（代表者）	・当店のある商店街は、中心市街地の最も大きい商店街だったが、商売がうまくいかなくて撤退したり大型店が閉鎖して、客がぴたりと街に出なくなってしまった。このままだと、空き家ばかりになってしまうと心配していたら、ぽつぽつと新しい人が入ってきたので、今後に期待している。
	□	商店街（代表者）	・贈答シーズンが近づくので期待したいが、日用品、エネルギー関連の値上げが連日報道されていることから、支出が抑えられるのではないかと不安である。
	□	百貨店（経理担当）	・デイリー使いの物の消費が活発になれば景気が上向く気配を感じ取れるが、物価高騰や燃料補助金の縮小等、いまだ商環境が整っているとはいえない。景気は変わらないか悪くなる傾向にある。
	□	百貨店（店長）	・経済対策に、現時点ではそれほどの期待感はない。即効のカンフル剤とはならず、悪くもならないだろうが良くなる確信もないため、現状維持と考える。
	□	スーパー（経営者）	・ガソリン、灯油、電気等のエネルギーコストの増加が、どれほど消費マインドに響くかが懸念される。
	□	スーパー（店長）	・最低賃金は上がったが、企業としては賃上げを実施するために価格転嫁しているところもあるため、物価高傾向は変わらない。買い回り頻度などは直近と同様の傾向を維持すると考える。
	□	スーパー（企画担当）	・秋の値上げの影響はあるが、やや悪くなるというほどの影響はない。
	□	コンビニ（経営者）	・人件費や光熱料金の高騰で経費はかなり増えている。売上は上がったとしても、期待するほどは残らない。
	□	コンビニ（エリア担当）	・来年４月から始まる食料品の消費税減税に期待している部分はある。しかし、可処分所得が上がっていないのが現実であり、減税分が消費に回るとは考えにくい。
	□	コンビニ（店長）	・一般的な景気の悪さは、皆、体で分かっている。日常生活は余り変わらないとみている。
	□	家電量販店（店長）	・物価高の影響もあり、購買力が落ちている状況は変わらない。

	□	乗用車販売店（経営者）	・引き続き、新型車の発表や環境性能割廃止効果で、新車販売は伸びると予想する。ただし、クリーンエネルギー自動車導入促進補助金の補助額見直しにより、１～３月の新車登録への影響が懸念される。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	・伸長していた予約の動きが鈍くなっている。また、エネルギーコスト高など、良くなる情報が聞こえてこないため、毎日の人の動きも鈍く、先の予約に影響が出ている。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	・市内のイベントがかなり多く、来客数も平均単価も右肩上がりになっている。特に、土曜日のイベントのため、平日も準備のために団体宿泊が多くなっている。
	□	旅行代理店（副支店長）	・行楽シーズンに向け、個人や団体共に動きが活発化している。８月、９月の猛暑や災害の影響もあり、旅行時期を変えたことも一因ではないかと考える。冬季の低迷が懸念される。
	□	タクシー運転手	・物価が非常に上がっているため、タクシー利用にお金が回らなくなるとみている。
	□	通信会社（社員）	・ある程度の需要は見込めているが、リソース不足によりサービス提供が遅れている。これを解消することが現在の課題になっている。
	□	通信会社（社員）	・物価の高止まりや上昇に加え、取扱商材の値上げが重なると、やや悪くなる可能性もある。
	□	観光名所（職員）	・国内客が堅調のなか、インバウンドの増加に期待をしている。この先は暖冬による雪不足が心配である。
	□	ゴルフ場（副支配人）	・周辺の状況は何も変わっていない。
	□	その他レジャー施設［ボウリング場］（経営者）	・年末年始のため、一般利用は増えていくとみている。団体利用が増えてくれれば、申し分ない。
	▲	一般小売店［家電］（経営者）	・年末商戦は衣食住のうち、食への支出が大半を占める。ボーナス商戦がなくなり、諸物価の上昇に伴い、販売側としては全体的に厳しい年末になる。消費意欲も抑えられてしまいそうである。
	▲	百貨店（営業担当）	・農作物を中心に値上げが多い上に、これから冬に向かって、ガソリン補助金は縮小してくるため、決して良くなるということはない。中東情勢もこれから先どうなるか未知数で、不安材料が多い。
	▲	コンビニ（経営者）	・10月は例年なら秋晴れで天候が良いはずだが、今年は割と天候不順で降雨が多かったため、売上は厳しくなっている。また、近隣に大型店が出店したのも痛手で、売上がやや厳しくなっている。
	▲	コンビニ（総務担当）	・商材の値上げ等により節約志向が高まるなか、良くなる要素は見当たらない。
	▲	自動車備品販売店（従業員）	・今年は暖冬予想も出ており、季節商材の購入が伸び悩むことが予想される。
	▲	スナック（経営者）	・お金を使わない世の中になりつつある。街で酒を飲む人が非常に減っている。客の気持ち的なところから景気が良くなってもらいたい。
	▲	観光型旅館（経営者）	・今冬は例年より動きが悪い。このところ灯油価格の高騰が話題になっており、旅行をする雰囲気が減っている。また、前年と比較して関西方面からの客が減っている。インバウンドについては、中国からのインバウンド予約は全くない状況が続いている。
	▲	ゴルフ場（経営者）	・世界情勢の影響が継続的に出ると考えている。
	×	スーパー（副店長）	・景気が良くなる理由が見当たらない。
	×	コンビニ（経営者）	・今年は秋が早く訪れ、寒くなるのも早く、期間が長い。今後更に寒くなると、灯油や電気、水道料金が掛かるため、定価販売のコンビニでは購入しづらくなるとみている。
	×	コンビニ（経営者）	・どこかで経費増加の流れをストップしないと、従業員の勤務時間等にしわ寄せが出てしまう。
企業動向関連	◎	食料品製造業（営業統括）	・既に年末に向けての受注予約が確定している。例年より件数が多く入っているため、良くなる。
	◎	金属製品製造業（総務担当）	・半導体の需給が回復し、良くなる。

（甲信越）	○	電気機械器具製造業（従業員）	・仕事への問合せは結構来ており、一時よりも景気は良いと実感しているが、部材の納期が大分掛かっており、すんなりと受注できない状況にある。納期が短縮されて順調に入ってくるようになれば、受注ができ、景気も良くなるとみており、希望を込めての回答である。
	○	その他製造業［宝石・貴金属］（経営者）	・着るものも厚手の物に変わって、ジュエリーを身に着ける機会が増えてくることから、新たな購入だけでなくリフォーム、リメイク需要が徐々に増えている。また、卸売は、秋冬から来年に向けての新作がそろいつつある。金価格高騰で、仕入れは難しいといっていた小売店も、年末に向かって、何か新しい商材を希望しているため、売上アップに期待する。
	□	食料品製造業（総務担当）	・原材料費が高止まりしている。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・地域独自の製品販売サイトの新商品審査に採用され、国内はもとより、海外バイヤー向けの展開も視野にあるため、期待感は持てる。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・日用品の値上げが継続しており、耐久消費財への支出の戻りが遅れている。また、海外メーカーの台頭による価格競争も激しく、収益確保が難しい状況にある。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・大型案件はないものの、受注量が確保できている現状が、変わらず続くとみている。
	□	建設業（経営者）	・全体の景気が良くなるにはもう少し時間が掛かる。
	□	金融業（調査担当）	・製造業はＡＩサーバー向け部品の需要増加が続くほか、観光需要も順調に推移する見通しである。中東情勢の影響に伴うエネルギー価格の動向や不透明感、各種コスト増加が企業マインドを下押しする懸念がある。
	□	金融業（経営企画担当）	・インフレにより消費は落ち込みがみられるものの、国内金利及び為替市場は落ち着いている。しかし、欧州を中心に金利上昇が進んでいることや11月の米国の中間選挙の行方によっては、日本への影響も想定される。
	▲	＊	＊
	×	食料品製造業（製造担当）	・最低賃金が引き上げられ、資材価格も上がっているが、まだ価格転嫁はできていない。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
雇用関連 （甲信越）	◎	－	－
	○	職業安定所（職員）	・４月以降、有効求人倍率が右肩上がりに上昇している。
	□	職業安定所（職員）	・光熱費の高止まりや灯油価格等の上昇で、日々の生活が苦しいという声を聞く。より良い条件を希望する求職者の動きが今後も続くものとみている。人件費や原材料費の価格転嫁もじわじわと進んでおり、景気の不透明感は続くものの、直ちに雇用情勢が大きく変化する状況にはない。ＡＩ関連の動きが低調になり、景気や業績への影響を懸念する事業所もわずかにみられる。
	□	職業安定所（職員）	・先の景気は、ＡＩ需要を背景とした製造業の好調が期待される。一方、物価高騰の長期化による影響は依然として不透明なため、景気を押し上げる要因と下押しする要因の双方が存在している。
	▲	－	－
	×	－	－